

25年漁期 まあじ漁獲可能量(TAC)案について

(単位: 万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)					TAC				備考
		水準	動向	22年	23年	24年	25年	漁獲シナリオ (管理基準)	22年	23年	24年	25年 (案)	
まあじ	<p>【中期的管理方針】 太平洋系群については、資源水準の維持を基本方向として、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p> <p>【24年TAC設定の考え方】 太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、太平洋系群については漁獲シナリオ②の「親魚量のBlimitへの回復(2.0万トン)」、対馬暖流系群については漁獲シナリオ③の「現状の親魚量の維持(18.4万トン)」とし、これらの合計値20.4万トン万をTAC数量とする。</p>												
	太平洋	中位	減少	3.0	3.3	2.4 (2.1)	2.0	親魚量のBlimitへの回復(②)					
	対馬暖流	中位	増加	19.4	18.7	15.2 (20.5)	18.4	現状の親魚量の維持(③)					
合計				22.4	22.0	17.6 (22.6)	20.4		22.4	22.0	17.6 (22.6)	20.4	

注) 下段()書きについては、ABClimit欄は再評価後の数量、TAC欄は期中改訂後の数量。

【資源評価結果】

<参考> Blimitと親魚量

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2013年 漁獲量 (万トン)	評価		2011年 親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に現 状親魚量を 維持する確 率	5年後に Blimitを維 持する確率		
太平洋系群	中位	減少	<Blim	ABClimit *① 親魚量の増加(0.8Fmed)	1.9	100%	99%	2.1万トン	親魚量 2.4万トン
				*② 親魚量のBlimitへの回復(Frec)	2.0	84%	70%		
対馬暖流系群	中位	増加	>Blim	ABClimit *① 資源量の増大(F30%SPR)	15.5(13.1)	99%	100%	25万トン	親魚量 15万トン
				*② 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	21.5(18.2)	53%	90%		
				*③ 現状の親魚量の維持(Fmed)	21.8(18.4)	49%	90%		

注) 対馬暖流系群の2013年漁獲量の()内は、我が国200海里内の値。

25年漁期 まいわし漁獲可能量(TAC)案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)				漁獲シナリオ (管理基準)	TAC				備考
		水準	動向	22年	23年	24年	25年		22年	23年	24年	25年 (案)	
まいわし	<p>【中期的管理方針】 太平洋系群については、資源水準の維持若しくは増大を基本方向として、漁獲動向に注意しつつ、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p>												<p>【25年TAC設定の考え方】 太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、太平洋系群については漁獲シナリオ②の「親魚量の維持(32.2万トン)」、対馬暖流系群については漁獲シナリオ③の「親魚量の増大(10年でBlimitへ回復)(3.8万トン)」とし、これらの合計値に基づく36.0万トンをTAC数量とする。</p>
	太平洋	中位	増加	9.0	14.0	23.6 (28.8)	32.2	親魚量の維持(②)					
	対馬暖流	低位	増加	(参考) (1.2)	(参考) (1.1)	0.9 (3.8)	3.8	親魚量の増大(10年でBlimitへ回復)(③)					
合計				—	—	24.5 (32.6)	36.0		10.2	15.1	24.5 (32.6)	36.0	

注) 下段()書きについては、ABClimit欄は再評価後の数量、TAC欄は期中改訂後の数量。

【資源評価結果】

<参考> Blimitと親魚量

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2013年 漁獲量 (万トン)	評価		2011年 親魚量	Blimit	Bban
	水準	動向				5年後に現 状親魚量 を維持す る確率	5年後にBl imitを維持 する確率			
太平洋系群	中位	増加	>Blim	ABClimit *① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	21.2	100%	100%	28.0万トン	親魚量 22.1万トン	資源量 2.2万トン
				*② 親魚量の維持(Fmed)	32.2	65%	79%			

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2013年 漁獲量 (万トン)	評価		2011年 親魚量	Blimit	Bban
	水準	動向				5年後(10 年後)にBl imitへ回 復する確 率	10年間に Bbanを下 回る確率			
対馬暖流系群	低位	増加	<Blim	ABClimit *① 親魚量の増大(B/Blimit × Fmed) (Frec)	2.7	78%(92%)	0%	5.5万トン	親魚量 10万トン	資源量 0.5万トン
				*② 親魚量の増大(5年でBlimitへ回復)(Frec1)	3.5	52%(66%)	0%			
				*③ 親魚量の増大(10年でBlimitへ回復)(Frec2)	3.8	40%(51%)	0%			

25年漁期 するめいか漁獲可能量(TAC)案について

(単位: 万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)					TAC				備考
		水準	動向	22年	23年	24年	25年	漁獲シナリオ (管理基準)	22年	23年	24年	25年 (案)	
するめいか	<p>【中期的管理方針】 高、中位にある資源が海洋環境の変化により大幅減少に転じる可能性があることから、資源動向の把握に努めつつ、海洋環境条件に応じた資源水準の維持を基本方向として管理を行う。資源水準の変動に際しては、関係漁業者の経営への影響が大きくなりすぎないように配慮を行うものとする。</p>												<p>【25年TAC設定の考え方】 冬季発生系群及び秋季発生系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを漁獲シナリオ②の「現状の親魚量の維持(冬季発生系群17.1万トン、秋期発生系群15.8万トン)」とし、これらの合計値に基づく32.9万トンをTAC数量とする。</p>
	冬季発生	中位	減少	15.7	14.1	17.9	17.1	現状の親魚量の維持 (②)					
	秋季発生	高位	横ばい	16.1	13.1	16.0	15.8	現状の親魚量の維持 (②)					
合 計				31.8	27.2	33.9	32.9		31.8	27.2	33.9	32.9	

【資源評価結果】

<参考> Blimitと親魚量

	資源の状態		資源量(親魚量) の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2013年 漁獲量 (万トン)	評価		2012年 親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に現 状親魚量 維持する 確率	5年後に Blimitを維持 する確率		
冬季発生系群	中位	減少	>Blim	ABClimit ① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	20.9(14.3)	75%	92%	31.5万トン	親魚量 18.7万トン
				*② 現状の親魚量の維持(Fmed)	25.1(17.1)	46%	73%		
秋季発生系群	高位	横ばい	>Blim	ABClimit ① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	20.6(8.2)	77.4%	90.5%	64.9万トン	親魚量 39.8万トン
				*② 現状の親魚量の維持(Fmed)	39.7(15.8)	42.8%	70.5%		

注) 2013年漁獲量の()内は、我が国200海里の値。